

ペット供養と真宗

最近、ご縁のある方から「飼っていたペットが亡くなったのでペット供養をやっていただけのですか」といった問い合わせがありました。ここ数年のペットブームでご自宅の家の中でペットを飼われているお宅が増えたような気がします。ショッピングモールなどのペットショップには高額なペットが売られております。人間の寿命は平均で男性80歳前後、女性は86歳前後と高齢化社会が進んでおります。それに対して、ペット（犬・猫）の平均寿命は個体差がありますが10年から15年と言われております。ペットを飼われていると必ずと言っていいほど先にペットとの別れを経験します。家族同様に大事に育てていたペットが先に亡くなりますと人間と同様に葬儀をする方が増えてきていると聞いております。車を運転しておりますとペット供養の看板などを目にすることがあります。何年も大事に飼っていたペットが亡くなり供養のために葬儀を行いたいという気持ちはわかりますが、浄土真宗では仏法を聴聞する者に対して葬儀などの仏事を行うのであってペットなどには対しては葬儀などは行わないということでもあります。しかし、私事ではありますが長年飼っていた犬が亡くなったとき娘にペットのためにお経を読んでと言われて浄土真宗の教義には反するとは思いましたが娘とお経を読んで供養をしました。ペット供養はしないとは言いますが、家族の一員として長年一緒に暮らしていた大切なペットが亡くなって、悲しみの中から、いのちあるものは必ず亡くなるといういのちのはかなさ、大切さを知るためにも葬儀をする、しないかは別として手を合わせるという気持ちは持ち続けていかなければいけないのではないかと思います。